

# 液状化検体細胞診ThinPrep®

シンプレップ



## 従来法よりも優れた検査法

20世紀後半の50年間で、従来法の細胞診検査によって子宮頸がんによる死亡件数が70%減少しました。これにより、従来法細胞診は最も成果の高いスクリーニングプログラムの1つになりましたが、検査精度が損なわれるという点で、改善の余地が残されていました。ThinPrep婦人科細胞診は、液状化検体を導入することでこの点を改善し、検体適正と検査精度が大幅に向上しました。ThinPrepは液状化検体を利用した最初の検査法であり、この検査が導入されて以降、米国で浸潤性子宮頸がんがさらに28%減少しました1)。

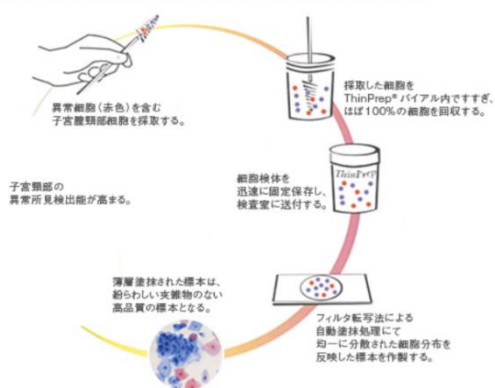
### 液状化検体細胞診

液状化検体細胞診ThinPrepは、細胞保存液（ThinPrepプレサースサイト液）と細胞を塗抹させる自動機器により構成されています。ThinPrep婦人科細胞診標本は読み取りやすく、紛らわしい血液、粘液および診断上不要な細胞残渣を最小限に抑えることができるため、マニュアル操作による評価およびコンピュータ支援による評価のいずれにおいても高い精度を確保することができます。ThinPrepの技術によって標本の品質が向上するため、鏡検診断用の適切な標本を作製することができます。

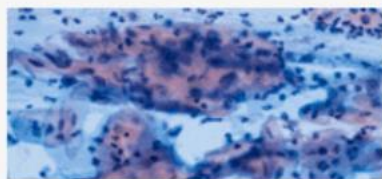
従来法細胞診スライドの作製



ThinPrep® 婦人科細胞診スライドの作製

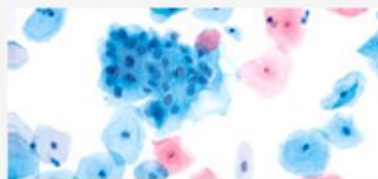


### 従来法



- ・大半の細胞成分が廃棄される。
- ・正確な細胞転写が得られない。
- ・細胞の重なりや凝集がみられる。
- ・紛らわしい夾雑物の混入。

### ThinPrep® 法



- ・ほぼすべての細胞成分を回収できる。
- ・正確な細胞成分の転写が得られる。
- ・均一化された細胞分布が反映される。
- ・紛らわしい夾雑物を最小限に抑えることができる。